



日本歯科色彩学会

日本歯科色彩学会 ニュースレター

No. 75

日本歯科色彩学会事務局

〒950-2071 新潟市西区西有明町12-19 #101(OMY 会社内)

発行人／新海航一

MAIL／info@jacd-dc.jp

発行日／2025年10月7日

会員のメールアドレスを学会事務局宛へお知らせ下さい

第32回日本歯科色彩学会総会・学術大会を終えて

大会長 市村 葉* 準備委員長 中山 友克**

(*明海大学歯学部機能保存回復学講座保存治療学分野)

(**埼玉歯科技工士専門学校)

第32回日本歯科色彩学会総会・学術大会は、2025年8月23日(土)・24日(日)に埼玉県川越市のウェスタ川越にて開催されました。全国的な今夏の暑さに違わず川越も記録的な気温を示す中、多くの参加者を集って頂き大変ありがとうございました。

学術大会前日の23日は、常任理事会、理事・評議委員会を開催し、その後、懇親会を行いました。演者の二瓶先生、三浦先生と共に食事を楽しみながら親睦を深めることが出来ました。

学術大会当日の24日は、午前中の特別講演では、三浦賞子先生(明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科補綴学分野准教授)に「天然歯と調和する補綴歯科治療—チームアプローチによる色調再現の探求—」についてお話いただきました。多くの症例写真と共に歯科技工士さんとのコラボレーションによる審美性の高い修復物について紹介されました。午後の部では、講習会1として、二瓶智太郎先生(神奈川歯科大学副学長)による「歯そして歯冠修復装置の色調に対する様々な影響」についてご講演いただきました。歯学部の学生教育に歯科審美学の講義を導入していることは興味深かったです。講習会2として、名取和幸先生(日本色彩研究所理事長)による「視感

比色の基礎とトレーニング」についてご講演いただきました。お手製の資料を参加者にご用意いただき、楽しく色彩について学ぶことが出来ました。

また、4演題のポスター発表では、参加者のほとんどの方が参集し、活発な討論が行われました。ポスター前では終日意見交換をされている姿もみられ、気さくに交流する場になっていたようです。

準備期間の短い中で、学会長の新海教授、準備委員長の中山先生および会員の皆様のご協力のもと無事2日間を過ごすことができ、大変感謝しております。

大会のメインテーマである「歯科色彩のハーモニー」にもありますように、修復物との調和はもとより、歯科技工士さん、歯科衛生士さん、スタッフの皆さん



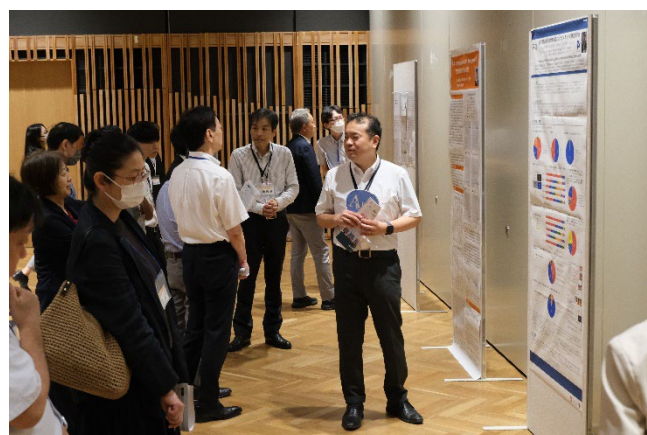
懇親会(乾杯)

とチームとして臨床へ参加することによる歯科色彩における審美性の向上や人的交流など、今後の歯科診療への在り方を示すことが出来たのではないかと思います。CAD/CAM や光学印象の保険導入をはじめ、色彩の重要性を身近に感じている先生方も多くいらっしゃるようです。その中で、臨床現場では歯科医師や歯科衛生士さんだけではなく歯科技工士さんとの共同作業が必須条件になりつつもあり、今後さ

らに、他分野や他方面とのリレーションシップが進むでしょう。その先を見据え、新たなハーモニー、調和を築くきっかけになる学術大会であれば幸いです。今後も、他学会にはない歯科色彩学会ならではの和やかでアットホームな雰囲気を大事にしながら、新たな情報発信と会員増強を目指し、引き続き皆様とハーモニーを奏でられれば幸いです。次期大会で会員の皆様と再会できることを心待ちにしております。



総 会



会員ポスター発表



特別講演 会場の様子



特別講演の三浦賞子先生（左）と市村葉大会長



講習会 1 の二瓶智太郎先生（左）と平山聡司講習会委員長



講習会 2 「色立体人間になってみよう」



表彰選考委員会報告

表彰選考委員会 委員長 平山 聡司 (日本大学松戸歯学部 特任教授)



日本歯科色彩学会では、本学会の学術雑誌である「歯科の色彩」に掲載されて原著論文と歯科色彩学会学術大会におけるポスター発表を対象にそれぞれに学会賞と奨励賞を設けて優れた歯科色彩研究に対して顕彰しています。

今回は、「歯科の色彩」第30巻1号と第31巻1号の優秀論文および昨年の第31回学術大会における優秀発表選考結果について報告いたします。

1. 「歯科の色彩」第30巻第1号の優秀論文選考結果

【学会賞】

論文名：人工的変色あるいは非変色ウシ歯根象牙質に対するユニバーサルコンポジットのレジン色調適合性

著者：宮野侑子、鈴木雅也、新海航一

【奨励賞】該当なし

2. 「歯科の色彩」第31巻第1号の優秀論文選考結果

【学会賞】

論文名：硬質レジン人工歯に対するユニバーサルシェードコンポジットレジン充填物のシ

ェードマッチングの経時的変化

著者：高橋天佑、大野 寛、山口耀平、宮野侑子、鈴木雅也、新海航一

【奨励賞】該当なし

3. 第31回学術大会優秀ポスター発表選考結果

【学会賞】

演題名：ホームホワイトニング後の歯の色彩変化
発表者：新海航一、鈴木雅也、佐藤史明、吉井大貴

【奨励賞】

演題名：ユニバーサルシェードフロアブルレジン
充填物の重合前後と1週間後におけるシ
ェードマッチング

発表者：大野 寛、山口耀平、高橋天佑、宮野侑子、鈴木雅也、新海航一

なお、論文奨励賞の対象者は、筆頭著者の年齢が37歳未満、発表奨励賞の対象は、筆頭発表者の年齢が30歳未満であることが条件です。若手研究者の論文投稿や発表を心待ちにしています。



“特集” ～私の診療室紹介～



前号からスタートさせた規格である“特集”「私の診療室紹介」もいよいよ第2弾を迎えました。当学会には、地域の歯科診療所で歯科の色彩に関して精力的に取り組まれている先生方が多く入会されており、このような会員の皆様の日常を少しでもご紹介

いただくコーナーとして、会員同士のさらなる情報交換の場になればと考えております。お忙しい中、第2弾の原稿をご執筆いただいた村井宏隆先生に心より感謝申し上げます。

(ニュースレター編集委員長 金子 潤)

理事 村井 宏隆 (埼玉県川越市・フリーズア歯科)

第32回日本歯科色彩学会総会・学術大会が開催されました川越でフリーズア歯科を開業しております。明海大学を卒業後、明海大学保存修復学講座に入局し、片山伊九右衛門先生、片山直先生のご指導の下、コンポジットレジンの色についての研究をしていました。半透明性材料であり周囲の色の影響を受けやすいコンポジットレジン自身の色は何色？をテーマにいろいろな背景色下での色調の変化を測定し、調査しておりました。また、積層充填により色を重ねてより自然な歯の色調を回復させるための材料の厚みや種類について考察しておりました。それが現在はユニバーサルシェードなる材料が出現し、単一の材料で複数のシェードがカバーできるようになり材料の進歩に驚いております。

しかしながら、当院では充填用に複数のシェードやメーカーの異なる材料が多々あり、スタッフたちを困らせながら今まで通りの積層充填や充填材料を使い分けて修復を大学での材料や色調の研究から各

材料の特徴を生かした歯科治療をしております。

また、開業後は阿部晴彦先生、稲葉繁先生のご指導の下、1歯単位の修復から1口腔全体を診るようになり、阿部先生考案のSHILLA SYSTEMを用いた正中矢状面を基準とした、フェイスボウトランスファーを行って咬合器に模型を装着し咬合や顎関節を考慮した口腔全体の回復改善を目標に日々の診療を行っております。

大学在籍時には、色彩の研究だけでなくスポーツ歯学にも携わることができ、現在指導医、専門医の認定を受け、スポーツする方への歯科サポートも行っております。

現在、キックボクシングの女子プロ選手（RINA：TEPPEN GYM 所属）のスポンサーとして口腔内環境の管理、マウスガードの作製やホワイトニングなどを行っております。ご興味のある方がおられましたら、応援よろしく願いいたします。





学会事務局よりお知らせ

事務局 木暮 史行 (OMY)



日頃より当会の運営にご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。

会員の皆様には、先日（9月29日付）に2025（令和7）年度の年会費のご請求書をメールにてお送り致しました。納入期限は10月15日となっておりますので、期日までにお手続きをお願い致します。

なお、会員名簿にメールアドレスのご登録がない方には、請求書を郵送しております。郵送でお受け取りの方は、10月20日までにお手続きをお願い致します。

※ 過年度分の年会費が未納の方は、併せてお願い致します。

※ 既にご納入いただいた方には、案内が重複しましたことをお詫び申し上げます。

さて、当会では新規入会会員および賛助会員を随時募集しております。お知り合いの方や、お付き合いのある企業様をご紹介いただけますと幸いです。入会申込書は当会ホームページよりダウンロードしてご利用ください。

また、会員の皆様でご住所やメールアドレスなどの登録情報に変更がある場合は、お手数ですが事務局（info@jacd-dc.jp）までご連絡下さい。

宜しくお願い致します。

【編集後記】

今年は、いつにもなく猛暑が続いて体調管理をするのが大変な夏でした。そんな中無事に第32回総会・学術大会を終えることができました。今年のテーマは「歯科色彩のハーモニー」として歯科医療に携わる方々の連携が必須であることと調和のとれた関係性が重要であるという市村大会長のお言葉がありました。

アナログな処置を主とする歯科医療も時代の流れと共にデジタル機器を用いる事が日常的となり便利であり医療機器の発展に感謝しかありません。ただ

し、なんでも最新のデジタル機器に頼るばかりではなく「木を見て森を見ず」ではありませんが、基本に戻って自己の知識や教養が一段と重要であり自己研鑽を積み重ねなければデジタル社会と共生することができなくなってしまうのではと焦りを感じるのを過ごしました。

年明けには「生成AI」を学ぶ見学会が企画されています。デジタルとアナログを融合できるように学会会員皆様と一緒に知識をインプットしていきたいと思っています。
(小澤 有美)

日本歯科色彩学会ニュースレター編集委員会 金子 潤、新海 航一、中山 友克、小澤 有美